

## 「プラスチック資源循環戦略(案)」に関して意見を述べます。

まず、「おわりに」で年限を切って削減数値を提示したことは、これまで慣例であった積み重ね方式での戦略とは一線を画したことで、評価されると考えます。しかし、削減の基準年などが明記されていないことが問題です。

また、その前提となる様々な施策や国民、産業界の取り組みとして、第一に「使う事を前提とした削減」になっているところが問題です。

「使わない」の選択肢を第1番目に明記することが重要だと考えます。この考え方が国民に浸透しない限りどんなに野心的な目標を掲げても絵に描いた餅に終わる可能性が高いと思います。

プラスチック問題は、資源の枯渇や温暖化問題など地球環境問題と切っても切れない関係にあり、国民のライフスタイルや社会システムの変換を、NGOなどを中心に訴えてきた歴史があります。

レジ袋規制など使い捨てプラに関しては、日本は既に取り組みが遅れている国となっています。今年「海洋プラスチック憲章」に署名できなかったことは非常に残念なことです。来年G20が日本で開催され、世界を主導するべく目標を掲げ、世界と連携してと謳っているのであれば、是非憲章にも署名をするべきです。

さらに、海洋プラ対策に関しては、これまでに排出してしまったものへの責任はどうするのかに関しても、もう少し言及が必要だと考えます。既に排出してしまったもので実際に影響を受けている生態系があることも自明です。もの・人だけではなく自然界への配慮も取り上げる必要があります。

日本の廃棄物管理システムの途上国への技術導入支援などは速やかに実施して欲しいものです。

NPO 法人 グリーンコンシューマー東京ネット 理事 善財裕美